公益社団法人
全国私立保育連盟

# （公社）全国私立保育連盟　調査部
# 『もっと子育てしやすい社会へ』アンケート2025
# 調査報告書

## はじめに

令和7年4月25日、今年度1回目の『こども家庭審議会幼児期までのこどもの育ち部会』が開催されました。令和5年12月に閣議決定されたこども家庭庁が進める幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）を主となって議論したのがこの部会でありますが、部会の構成員の方々の所感では充実した内容のビジョンを策定出来たという思いはあるものの、このビジョンが当初の予定通り今の日本の社会に浸透しているかという面では不十分という見解を抱いているように見えました（web動画による会議を視聴した筆者の感想）。特に上記の5つのビジョンにおける4つ目保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をすると5つ目こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増すについては、社会の変化の機微を探し出そうとしていても、ほとんど感じられないのが現実です。

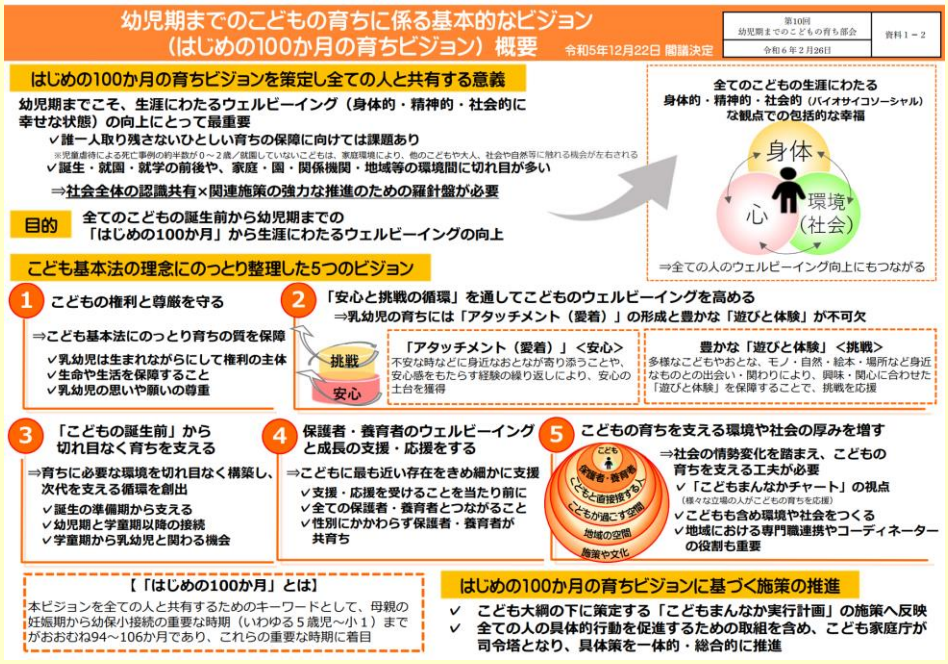
今回の調査はそのような状況の中で、保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援が少しでも具体化するために、今実際に子育てをしている保護者の方々がどの様な場面でどの様な支援を求めているかを全国規模で集約し、国や自治体へ届けたいという願いがあります。これまで私達（公社）全国私立保育連盟調査部では、自らの事業フィールドである保育に関連した内容の調査活動を行ってきましたが、ここではあえて保育に触れずに、子育てしている保護者や養育者の要望や支援を求める生の声を聞くことに努めました。改めて保護者の方々が子育てをしながら自分自身も充実した生活をおくれる社会に必要なものは何かを皆で考えていきたいと思いますし、それが実現するよう取り組んでまいります。

アンケート調査である以上、ご回答頂いたデータを報告書の形式でまとめておりますが、頂いた自由記述を何よりも代え難いものと受けとめ、多様な方法で社会へ向けての周知に努めます。ご回答頂きました保護者・養育者の皆様に感謝致します。

【調査対象】
子育てする
保護者・養育者

【調査回答期間】
2025/5/1(木)～
5/31(土)

【回答数】
2283回答




令和5年12月22日付
閣議決定した
育ちビジョン

公益社団法人
全国私立保育連盟

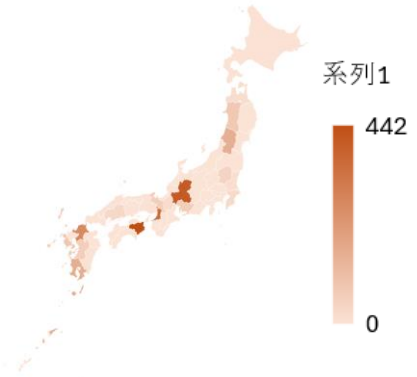
# （公社）全国私立保育連盟　調査部
# 『もっと子育てしやすい社会へ』アンケート2025　単純集計

**【調査回答期間】**
**2025/5/1(木) ～ 2025/5/31(土)**

Q1　あなたがお住まいの都道府県を
お答えください。(n=2283)

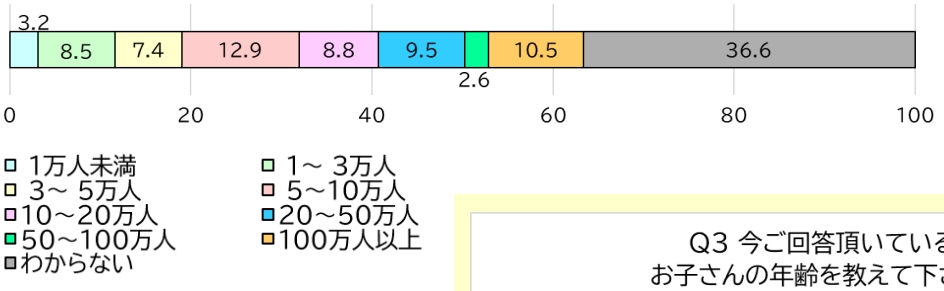
| 組織名 | 回答数 | 組織名 | 回答数 | 組織名 | 回答数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 3 | 長野県 | 0 | 岡山県 | 1 |
| 青森県 | 14 | 新潟県 | 0 | 広島県 | 30 |
| 岩手県 | 0 | 富山県 | 0 | 山口県 | 0 |
| 宮城県 | 0 | 石川県 | 0 | 徳島県 | 442 |
| 秋田県 | 77 | 福井県 | 0 | 香川県 | 0 |
| 山形県 | 152 | 岐阜県 | 403 | 愛媛県 | 0 |
| 福島県 | 0 | 愛知県 | 61 | 高知県 | 0 |
| 茨城県 | 11 | 三重県 | 0 | 福岡県 | 264 |
| 栃木県 | 44 | 滋賀県 | 21 | 佐賀県 | 0 |
| 群馬県 | 1 | 京都府 | 60 | 長崎県 | 88 |
| 埼玉県 | 1 | 大阪府 | 352 | 熊本県 | 59 |
| 千葉県 | 26 | 兵庫県 | 3 | 大分県 | 0 |
| 東京都 | 3 | 奈良県 | 1 | 宮崎県 | 2 |
| 神奈川県 | 0 | 和歌山県 | 0 | 鹿児島県 | 156 |
| 静岡県 | 1 | 鳥取県 | 0 | 沖縄県 | 5 |
| 山梨県 | 0 | 島根県 | 2 | | |

Q1 あなたがお住まいの都道府県を教えてください。(都道府県別回答のn数)

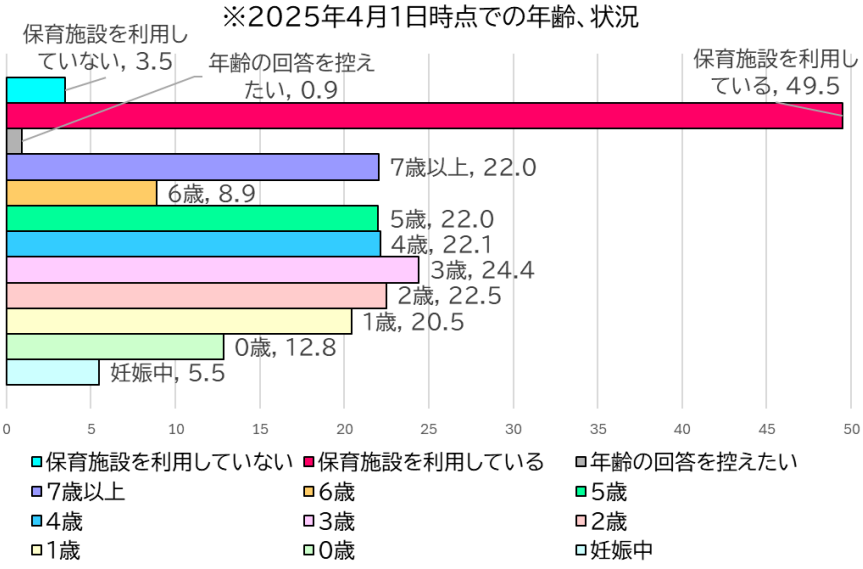


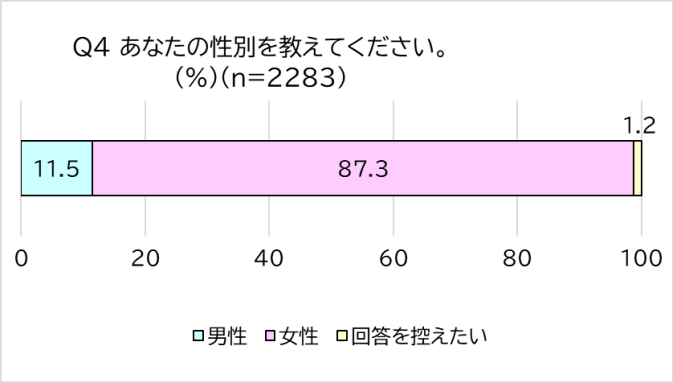

このアンケートの周知が十分でなかったため、都道府県別の回答数にバラツキが生じました。

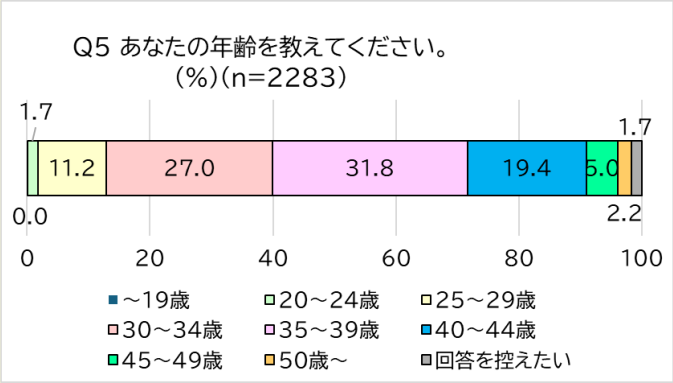
Q2 現在お住まいがある市区町村の人口をお答え下さい。(%)(n=2283)




Q3 今ご回答頂いている方が養育している
お子さんの年齢を教えて下さい。(%)(n=4898)
また現在保育施設の利用の有無をお選び下さい。
※2025年4月1日時点での年齢、状況






| Q6 毎日の育児中の生活において、周囲からの子育て支援に満足しているかを場面ごとに教えて下さい。 | 全体<br>上段 n数<br>下段 % | 満足 | やや満足 | どちらともいえない | やや不足 | 不足 | わからない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 職場(仕事内容、勤務時間など) | 2283 | 542 | 765 | 364 | 292 | 239 | 81 |
| | 0 | 23.7 | 33.5 | 15.9 | 12.8 | 10.5 | 3.5 |
| 移動(交通機関・自家用車の利用など) | 2283 | 637 | 709 | 473 | 258 | 172 | 34 |
| | 0 | 27.9 | 31.1 | 20.7 | 11.3 | 7.5 | 1.5 |
| 買い物(スーパー、店舗など) | 2283 | 515 | 843 | 436 | 321 | 153 | 15 |
| | 0 | 22.6 | 36.9 | 19.1 | 14.1 | 6.7 | 0.7 |
| 外食(レストラン、カフェ、店舗など) | 2283 | 286 | 746 | 554 | 430 | 241 | 26 |
| | 0 | 12.5 | 32.7 | 24.3 | 18.8 | 10.6 | 1.1 |
| 子どものための外出(公園、観光地など) | 2283 | 266 | 704 | 472 | 463 | 359 | 19 |
| | 0 | 11.7 | 30.8 | 20.7 | 20.3 | 15.7 | 0.8 |
| 自分のための外出(診療、趣味など) | 2283 | 152 | 430 | 493 | 582 | 603 | 23 |
| | 0 | 6.7 | 18.8 | 21.6 | 25.5 | 26.4 | 1.0 |
| 家事(調理、洗濯など) | 2283 | 209 | 599 | 672 | 461 | 315 | 27 |
| | 0 | 9.2 | 26.2 | 29.4 | 20.2 | 13.8 | 1.2 |
| 困った時の相談相手(家族や保育施設・公的機関など) | 2283 | 520 | 822 | 532 | 231 | 152 | 26 |
| | 0 | 22.8 | 36.0 | 23.3 | 10.1 | 6.7 | 1.1 |
| 上記を回答した上で、総合的な子育て支援 | 2283 | 173 | 771 | 630 | 432 | 257 | 20 |
| | 0 | 7.6 | 33.8 | 27.6 | 18.9 | 11.3 | 0.9 |

| Q7 日々の子育てのなかで、社会的な子育て支援が最も必要と考える項目を1つだけお選び下さい。 | 全体<br>上段 n数<br>下段 % | 利用しやすい施設や設備の整備など | 状況に応じた周囲の人の援助など | 優先・優遇対応などのルール、仕組みなど | 時間的負担軽減になる各種手続きの簡素化など | 精神的負担軽減になる周囲の寛容な雰囲気など | 経済的負担軽減になる支払割引や手当金など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 職場の場面(仕事内容、勤務時間など) | 2283 | 150 | 386 | 279 | 281 | 527 | 660 |
| | | 6.6 | 16.9 | 12.2 | 12.3 | 23.1 | 28.9 |
| 移動の場面(交通機関・自家用車の利用など) | 2283 | 762 | 234 | 398 | 200 | 162 | 527 |
| | | 33.4 | 10.2 | 17.4 | 8.8 | 7.1 | 23.1 |
| 買い物の場面(スーパー、店舗など) | 2283 | 1019 | 211 | 188 | 99 | 111 | 655 |
| | | 44.6 | 9.2 | 8.2 | 4.3 | 4.9 | 28.7 |
| 外食の場面(レストラン、カフェ、店舗など) | 2283 | 1113 | 172 | 189 | 49 | 226 | 534 |
| | | 48.8 | 7.5 | 8.3 | 2.1 | 9.9 | 23.4 |
| 子どものための外出の場面(受診、公園など) | 2283 | 1358 | 197 | 217 | 123 | 122 | 266 |
| | | 59.5 | 8.6 | 9.5 | 5.4 | 5.3 | 11.7 |
| 自分のための外出の場面(診療、趣味など) | 2283 | 695 | 424 | 178 | 318 | 280 | 388 |
| | | 30.4 | 18.6 | 7.8 | 13.9 | 12.3 | 17.0 |

# Q８ Q7の横軸の項目で具体例があれば教えて下さい。
# （各項目、自由記述50字まで）ChatGPTを用いた要約

## ＜利用しやすい施設や設備の整備など＞

① 遊び場・施設の不足と老朽化
子どもが遊べる公園・室内施設が圧倒的に不足。
大型遊具や全天候型の室内施設が求められている。
老朽化した遊具、公園の衛生状態の悪さ、安全性への不安が多数。

② 医療・保育施設の利便性不足
小児科の少なさ、予約の取りにくさ、休日夜間に診療できる場所がほとんどない。
病児保育が少なく、あっても高額・定員超過で利用できない。
保護者自身の通院時に子どもを預けられる仕組みがないとの声も。

③ トイレ・授乳・おむつ替え設備の整備不十分
子ども用トイレ・補助便座・オムツ替え台・授乳室が施設ごとにまちまちで不便。
特に「男性用トイレにおむつ台がない」「清潔でない」「場所が遠い」など不満多数。
ベビーカーが使いやすい導線・スペースの要望も多い。

④ 外食・買い物時の不便さ
子連れでも気軽に使える座敷・子ども椅子・子ども向けメニューのある飲食店が少ない。
スーパーやモールで2人乗りカート、子連れ優先駐車場などの整備が求められている。
外出先で離乳食の温め、ミルクのお湯など対応がないとの声も。

⑤ 地域格差とアクセスの課題
徒歩圏や地元に遊び場・公園がなく、遠くの市や県まで出る必要があるケースが多い。
公園に駐車場がなかったり、台数が少なくて使えない。
地方では施設自体が少なく「選択肢がなくて諦めている」との声も目立つ。

## ＜状況に応じた周囲の人の援助など＞

①職場の理解・柔軟な働き方
・子どもの体調不良時の休みや早退の理解が必要　・勤務時間の調整（短時間勤務、有給、夜勤免除）
・職場に子育て経験者が少なく、理解が得づらい　・急な呼び出し・欠勤に対する職場の雰囲気が課題
・欠員補充や代替要員がいないことで休みづらい

②一時預かり・病児保育・ファミサポ
・病児・病後保育が足りない／開始時間が遅い　・一時預かりが少なく、制度や申請が複雑で使いづらい
・料金の高さ、地域格差、利用ハードルがネック　・祖父母に頼れない家庭が多い
・休日・祝日の預かりが必要　・ちょっとした用事に子を預けられる支援が欲しい

③社会・地域の理解と支え
・公共空間での子連れへの視線が冷たい　・スーパー・電車・レストランでのちょっとしたサポートが助かる
・「困っていたら声をかけて」「荷物を持つだけで助かる」　・子どもの声・泣き声で肩身が狭い思いをする
・電車の座席やエレベーター利用の理解が欲しい

④家事・買い物・通院支援
・ベビーカー対応・買い物時の袋詰め補助　・荷物の運搬やカート移動支援
・子どもを連れての通院・美容室・買い物が大変　・家事代行や短時間サポートの気軽な利用を希望

⑤子育てに関する相談・情報提供
・相談窓口が多すぎてどこに聞けば良いか分からない
・困りごとの事例と対応先の一覧が欲しい
・LINE等で気軽に相談できる仕組みを望む
・子育てママ・パパの集いの場が欲しい

## Q８ Q7の横軸の項目で具体例があれば教えて下さい。（各項目、自由記述50字まで） ChatGPTを用いた要約

### ＜優先・優遇対応などのルール、仕組みなど＞

①優先・配慮のしくみ
子育て世帯・妊産婦への優先対応や配慮のルール整備
病院・レジ・公共交通・エレベーターなどでの優先案内・専用レーン希望
駐車場やトイレ、エスカレーターなど移動環境の整備・明確なルール化
優先されることで周囲との軋轢が生まれないよう周知とフォロー体制の重要性
「子どもが騒いでも許される空間」の整備・理解の促進

②柔軟な働き方と職場の理解
育児と両立しやすい労働制度の整備と企業文化の改善、時短勤務の延長（小学校卒業までなど）
子どもの病気時に有給で看護休暇取得できる制度希望
夜勤・残業の免除や在宅勤務の選択肢を柔軟に

③保育・施設の拡充と利便性
保育サービスや公共施設の利便性・柔軟性の向上、土日・早朝・夜間にも対応できる保育施設の整備
保育園の年度途中入園や兄弟別園の解消、手続きの簡素化
未就学児・小学生兄弟が一緒に使える子育て支援施設の併設化

④社会的理解と共生意識
子育てを一部の“特別扱い”としない、社会全体の理解醸成
優遇や配慮が反感を買わないような説明と合意形成、「子持ち様」等の偏見・冷たい視線に苦しむ声も
「お互いさま」「思いやり」の精神を広げ、多様な人（障害者、高齢者、子育て世帯）が共存できるルール作り

⑤制度・経済的支援の公平性
所得層や自治体による差をなくし、全体を底上げする支援制度と制度の統一化・明確化
非課税世帯だけでなく、中間層や共働き世帯にも支援を
育児にかかる経費（食費・習い事・送迎・医療）の税制軽減や現物支援

### ＜時間的負担軽減になる各種手続きの簡素化など＞

①手続きのオンライン化・デジタル化
役所に行かなくても済むよう、スマホ・ネット・アプリで完結できる仕組みを希望。
保育園申請、育休関連、就労証明など、書類提出の電子化を求める声多数。
マイナンバーカード活用による自動入力・省略化の要望も目立つ。

②書類・手続きの簡素化
同じ内容の毎年の提出や、複数機関への重複手続きに不満。
育休延長・保育更新・病後児保育など、申請書類を減らし、わかりやすくしてほしい。
兄弟姉妹で同じ情報を何度も書く手間に苦言。

③窓口・病院の待ち時間の解消
子連れでの長時間待機が大きな負担。
ネット予約・呼び出しシステム・優先対応など、スムーズな受付を希望。
病院や役所に「早く終われる仕組み」を求める声多数。

④平日昼間限定の制度・窓口の見直し
共働き家庭では平日対応に限界。
役所や健診、母子手帳交付なども土日・夜間対応を求める声が多数。
休みが取れず、申請や医療が受けられないケースも。

⑤制度の柔軟運用と就労との両立支援
時短勤務の制度が機能していない・周知されていない。
就労証明が手間。勤務変更がない場合の省略化希望。
手続きに仕事を調整しなければならない現状の不合理さへの指摘が多数。

## Q８ Q7の横軸の項目で具体例があれば教えて下さい。（各項目、自由記述50字まで） ChatGPTを用いた要約

### ＜精神的負担軽減になる周囲の寛容な雰囲気など＞

①職場の理解・休みやすさの改善
子どもの急な体調不良や行事による早退・欠勤がしやすい職場環境が求められている
上司や同僚からの無理解、「またか」という雰囲気、肩身の狭さへの不満が多数
「昔はこうだった」といったモラハラ的発言や、育休・時短に対する差別意識が障壁に
代替要員の整備、育休取得者の正当な評価制度も要望

②社会の寛容さ・子連れへの理解
外食、電車、公共の場での「子どもの泣き声・騒ぎ」への冷たい視線や苦情に心が疲弊
「子どもウェルカム表示」「ぐずってもOK」など、安心できる仕組み・雰囲気づくりを希望
子育てしている親への社会の眼差しが厳しく、「迷惑をかけるな」という風潮にストレス

③制度・仕組みの柔軟性と簡素化
保育園利用に対し「親が休みなら登園自粛」など柔軟性のない運用に不満
看護休暇の扱いや、申請制度が複雑・使いづらいとの声
一時保育や短時間預かりの充実、気軽に利用できる仕組みを求める声も多い

④精神的サポート・孤立防止
ワンオペ・産後うつ・気軽に話せる相手がいないなど、精神的な孤立感を抱える人が多数
気兼ねなく相談できる場、地域や職場での理解ある対話の場が求められている
子育て中でも「自分の時間」「リフレッシュ」が持てる支援が必要

⑤社会全体で子どもを育てるという価値観の醸成
子どもは社会の宝という共通認識が薄く、「自己責任論」や「母性神話」が根強い
子育て中の人とそうでない人との間の分断、妬みや不寛容も課題
企業や行政の教育・啓発活動による意識改革が求められている

### ＜経済的負担軽減になる支払割引や手当金など＞

① 物価高騰・生活費増への対応
食費・光熱費・ガソリン代など「日常生活のコスト」が上がり続けており、給料が追いつかない
おむつ・ミルク・学用品などの「子ども関連消耗品」の値上げ負担
スーパー・ドラッグストア・交通費などに対する「子育て割引」の要望

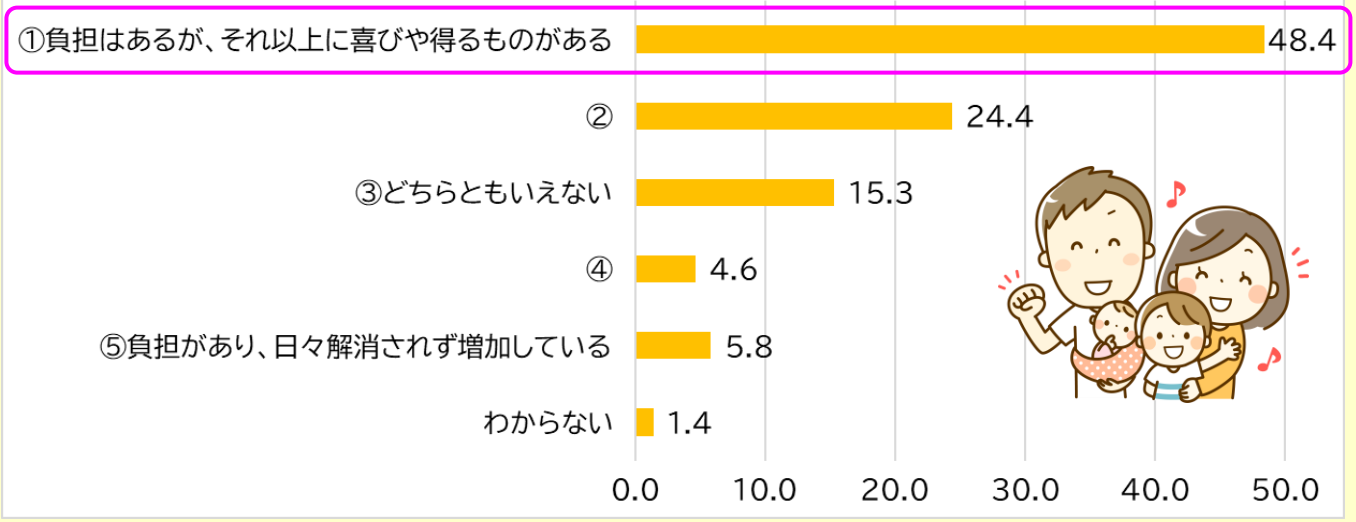
② 給付金・手当の拡充と柔軟化
児童手当の金額増加・物価連動型・支給期間の延長（高校卒業まで等）
所得制限の見直し：「中間層」や「共働き世帯」も支援が必要との声
子どもの人数に応じた加算、給食費・保育料・学童費の無償化

③ 税・社会保険の軽減
所得税・住民税・社会保険料など「引かれる側」が重く、実感がない
年少扶養控除の復活、扶養手当の拡充
多子世帯や育休世帯への「減税・猶予・免除」の仕組み希望

④ 時短・育休中の収入補填
時短勤務・育休中の収入減に対する「手当や補填制度」が不十分
3歳までの延長希望、個人事業主への公平な支援要望
子の看護休暇などを「有給扱い」にする制度の必要性

⑤ クーポン・割引・現物支給によるサポート
米・おむつ・ミルク・衣類などの「現物給付」「商品券」支援
誕生月・交通費・テーマパークなどの「割引制度」
地域パスポート（例：ぎふっこカード）などの利用拡充と明確化

Q9 子育てには保護者の方の様々なご苦労やご負担があると思いますが、
そのことに対する受け止め(認識)に最も近い選択肢を選んで下さい。
①(負担はあるが、それ以上に喜びや得るものがある)から
⑤(負担があり、日々解消されず増加している)まで
の5段階とした場合のあなたの考えをご回答下さい。(%)(n=2283)






(①+②)の回答を「子育てに対してポジティブな認識」を持っている可能性があるととらえるとその割合は7割を越えた。一方で「負担が蓄積している」と感じる層(④⑤)も1割程度存在しており、しかも⑤の回答の方が多いことから、地域別の⑤回答率を調べると
北海道東北8.1%　関東5.7%　東海北陸4.5%　近畿7.8%　中四国5.1%　九州5.1%
であった。

**Q 10 ●子育てや子育て支援の参考にしているテレビ番組やインターネット上のサイト等がありましたら教えて下さい。(自由記述、100字まで)**

回答の傾向として、NHK系のテレビ番組×SNS の組み合わせが非常に強く、手軽に、かつ共感しながら学べる媒体が支持されるようだ。一方でテレビや書籍よりもスマホで完結する媒体(SNS・アプリ) に人気が移行している

**Q10の自由記述の内容をもとに作成した子育て世帯が視聴・参考にしている番組ランキング**

| ランキング | 番組・コンテンツ名 | 回答数の多さ | コメント |
|---|---|---|---|
| 1位 | ハロー！ちびっこモンスター | ★★★★★ | NHK Eテレ番組。子どもの行動や親の関わりがリアルで共感する内容。 |
| 2位 | すくすく子育て | ★★★★★ | 子育て情報・専門家のアドバイスが好評。 |
| 3位 | 夫が寝たあとに | ★★★★☆ | 子育てのリアル・本音トークに共感の声多数。 |
| 4位 | おかあさんといっしょ | ★★★★ | 定番の子ども向け番組。親子で安心して見られる。 |
| 5位 | いないいないばあ | ★★★ | 乳幼児向け。リズムや言葉かけに助けられているとの声。 |
| 6位 | てぃ先生(番組・YouTube含む) | ★★☆ | SNSやTVなどで実践的な子育て術が話題。 |
| 7位 | シナぷしゅ | ★★ | テレビ東京発の乳幼児向け番組。最近認知度が拡大中。 |
| 8位 | まいにちスクスク／教育テレビ全般 | ★★ | 短時間・実用的な内容で手軽に見られると人気。 |
| 番外 | しまじろう、ピタゴラスイッチなど | ★～★★ | 子ども向け教育・知育系番組として定評あり。 |

## Q 10 ●子育てや子育て支援の参考にしているテレビ番組やインターネット上のサイト等がありましたら教えて下さい。（自由記述、100字まで） 続き

子育て世帯が参考にしている主なメディア・情報源（テレビ番組以外）

①SNS・動画プラットフォーム
・Instagram が最多（子育てグラマー・育児ネタの投稿が支持）
・YouTube では特に以下が人気：
てぃ先生、助産師HISAKO、佐藤ママ、ハロー!ミキティ（藤本美貴）、KIDSNA STYLE
・TikTok・X（旧Twitter） も情報源として一部支持あり
SNS活用の特徴：実体験に基づいた子育て情報、共感・コメント交流、動画やイラストで分かりやすい

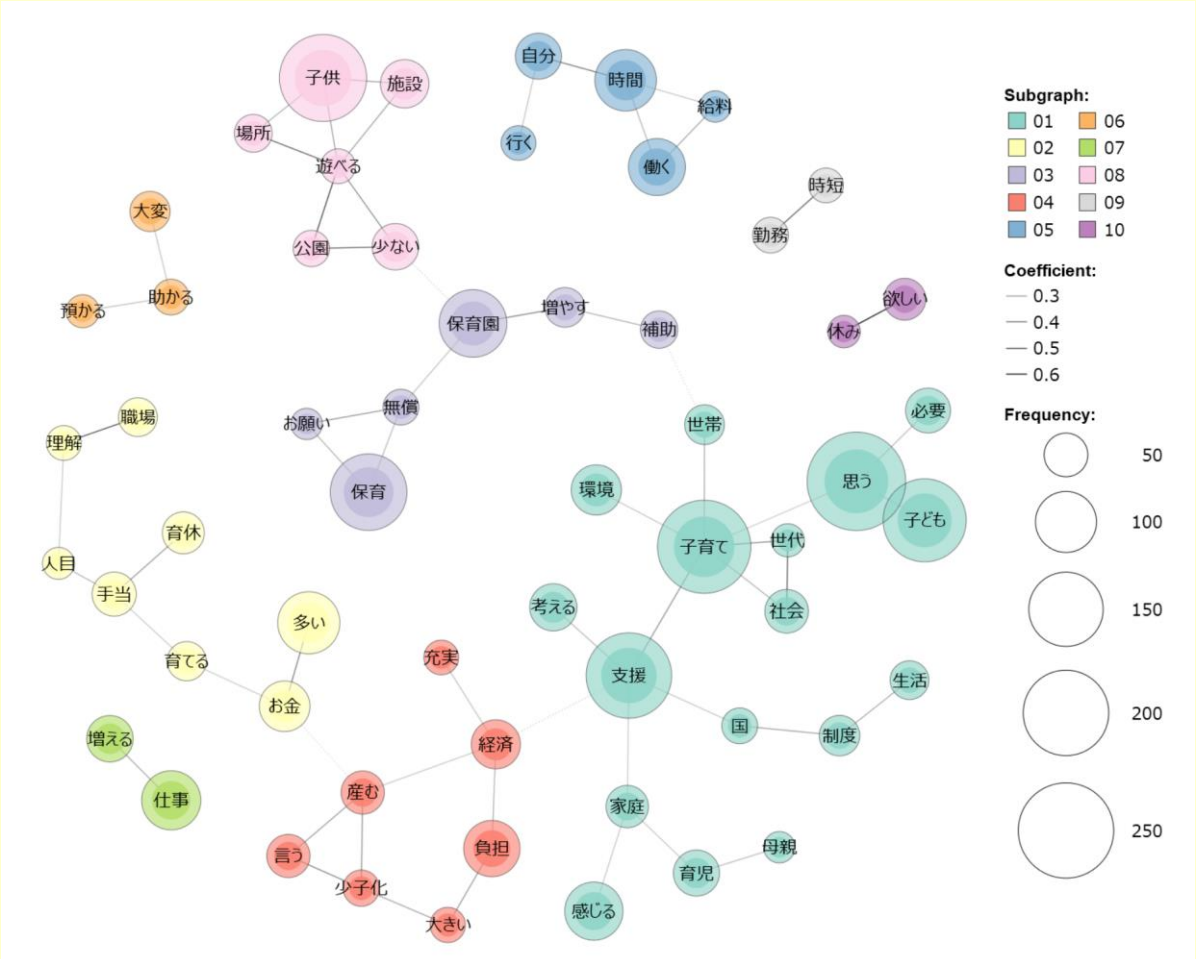
②育児情報サイト・アプリ（主に利用されているサービス）
たまひよ（Web・アプリ）、ママリ、ninaru、ぴよログ、トツキトオカ、ステップ離乳食
特徴：妊娠中～育児初期の情報が充実しており、育児記録・月齢に応じた情報提供が強み

③書籍・雑誌（育児書や専門書を活用している声も一定数あり）
書籍例：『世界標準の子育て』、雑誌例：コドモエ、たまひよ

④その他の情報源
行政・地域情報：市区町村のHP、LINE公式、ケーブルテレビなどから子育てイベント・制度を確認
人づての情報：保育園の先生、ママ友、親、職場の先輩ママなどからリアルな声を参考にする声多数
AI・検索：一部では ChatGPT や Google検索 を活用しているという声もありました

## Q11　子育てや子育て支援に関連することでのご意見をお聞かせ下さい。（自由記述、300字まで） n=594

※テキストマイニングの抽出語の共起ネットワーク作図にはKH Coderを使用。



# まとめ（Q11の自由記述より）

保護者から寄せられた自由記述の声をもとに、主要な課題と気づきを5つの視点で整理してみた。

**視点①：情報過多と精神的疲弊**

妊娠初期～産後は、ネットや書籍の情報に振り回され、神経質になる傾向が強い。特に初産の母親は、不安や孤独感を抱きやすい。実体験から学ぶことの重要性を改めて強調したい。

**視点②：制度の公平性に対する不満**

収入によって児童手当などの支援が変わる仕組みに対し、「住宅ローンや生活費で余裕がない」という声が多い。形式上は高所得に分類されても、実態は厳しい家庭もある。

**視点③：一律での支援を求める声**

児童手当などは「〇歳まで一律の定額制」等という要望が多数ある。所得によらず公平でシンプルな制度への期待がうかがえる。

**視点④：物理的な時間の制約**

保育園の送迎時間と、仕事や通勤時間が合わず、朝夕に大きなストレスを感じるという声が多い。都市部の渋滞や勤務体制とのミスマッチが課題。

**視点⑤：物価高による生活圧迫**

「物価が高すぎる」「生活が苦しい」という直接的な声が複数ある。食費や光熱費、日用品などの価格上昇が子育て世帯を直撃している。

上記の視点から考える
今後の子育て支援とは・・・

**Ⅰ 「正解探し」より「対話と共感」**

家庭・地域・行政が連携して「不安に寄り添う育児文化」を醸成。

**Ⅱ メンタルサポート強化**

出産直後の情報提供方法を見直し、精神的支援を拡充。

**Ⅲ 送迎負担の軽減策**

勤務形態の見直しや制度の導入により送迎時の負担を軽減。

**Ⅳ 支援制度の再設計**

収入に依存しない一律手当の必要性を検討。

**Ⅴ 物価高対策としての減税・補助**

子育て世帯向けの物価対策を強化。